

IV 子ども読書推進のための様々な取組

実践① 始良市立錦江小学校

1 はじめに

本校は、児童数276人の中規模校である。国道10号線が校区の中心を東西に走り、交通量の多いところに位置している。教育に対する価値観も多様化してきているが、学校と地域が一体となった校風は依然として受け継がれ、校区住民の学校への愛着は強い。

教育目標「豊かな心をもち、自ら学び、創意工夫しながらたくましく生きる子どもを育成する」を掲げ、その具現化を図るために、読書環境の整備に努め、学年の発達段階に応じた年間読書目標冊数を掲げ、読書指導の充実を図っている。

2 活動の実際（日付は平成29年度の実施日）

(1) 読書関連設営の充実

図書室や掲示板に、季節や行事にあった掲示や図書の紹介コーナーを設けている。掲示・設営物に対しての子どもたちの関心は高く、そのことをきっかけに本を手にする子どもたちも多い。また、先生方のおすすめの本を掲示したり読書標語を掲示したりすることにも取り組んでいる。子どもたちが教師の好きな本を知り会話のきっかけとするなど、本を通して人と出会うことにもつながっている。

(2) 読書行事の充実

ア 子ども読書の日集会（4月25日）

毎年、4月23日の「こども読書の日」にちなんで、朝の25分間、体育館で集会を実施している。

始良市全体で取り組んでいる「物語レシピを楽しもう」は、この集会で読み聞かせをした本に出てくる料理を給食のメニューとする取組で、子どもたちも楽しみにしている。また、この集会で紹介したおすすめの本のコーナーを図書室に設置するようにしている。

＜内容＞

- ① 大型絵本 [読書ボランティア]
- ② 読み聞かせ [図書委員会]
- ③ お知らせ・お願い [図書委員会]
- ④ 本に関するお話 [校長先生]



読書ボランティアによる読み聞かせ

イ 校内読書旬間（6月1日～16日）

梅雨時で子どもたちが室内で過ごすことが多い時期に設定している。本年度の新たな取組として、異学年による読み聞かせ活動を行った。

＜内容＞

- ① 期間中3冊の貸出し [図書室]
- ② 図書委員による読み聞かせ
- ③ 職員お薦めの本紹介・掲示 [図書室]
- ④ ポスター広報 [図書委員]
- ⑤ 読書標語コンクール [読書指導部]
- ⑥ 目標冊数（低10、中8、高6）表示
達成証配布 [読書指導部]
- ⑦ 各学年のおすすめの本を印刷した貸出しカード
- ⑧ 異学年による読み聞かせ



異学年による読み聞かせ

ウ 読書月間（10月）

毎年10月の1か月間を読書月間として、様々な読書推進活動を実施している。

＜内容＞

- | | |
|----------------|---------|
| ① 期間中3冊の貸出し | 〔図書室〕 |
| ② 多読者表彰 | 〔読書指導部〕 |
| ③ 読み聞かせ | 〔全学校職員〕 |
| ④ 読書ビンゴチャレンジ | |
| ⑤ 学年部読書集会 | 〔学年部〕 |
| ⑥ 全校読書祭り集会 | 〔読書指導部〕 |
| ⑦ 読書の記録（教室掲示用） | 〔各学級〕 |
| ⑧ 読書感想画 | |
| ⑨ 一日図書委員 | 〔読書指導部〕 |



図書委員会による劇「はらぺこあおむし」

エ 緑陰読書（夏季休業中 7月27日）

夏休みに校庭の樹木の木陰を利用して、緑陰読書を行っている。図書委員会の児童によるパネルシアター、職員によるエプロンシアターやアニメーションも行った。暑い夏休み中にもかかわらず80人ほどの子どもたちが集まった。また、本にちなんだ活動としてオリジナルのしおり作りを楽しむ姿が見られた。



緑陰読書（読み聞かせ）

(3) 読書ボランティアによる読書活動推進

本校では、木曜日朝、月に2回程度、読書ボランティアによる読み聞かせを行っている。これは今年で15年目の活動である。

年度当初、ボランティアを希望する保護者を募り、5月に行われる「読書ボランティア顔合わせの会」で、活動についての説明をしたり、学級ごとの当番を決めたりする。活動としては、朝の読み聞かせのほか、年間読書行事へ出演していただくこともある。

ボランティアの方々には、学年に応じた内容の本の読み聞かせや、自分の思い出のある本の紹介などを行っている。読書行事での活動は、朝の集会か昼休みになるが、毎回趣向を凝らして子どもたちの読書への意欲を高めている。

3 おわりに

子どもたちが、主体的に本に親しみ、本から知識を得たり本の世界を楽しんだりすることを願ってこれまでいろいろな取組を行ってきた。このような取組の成果として、全校の読書冊数は、平成27年度159冊、平成28年度は130冊と、目標冊数（低学年120冊、中学年100冊、高学年80冊）を大きく上回っている（平成28年度は、蔵書の電子作業化に伴い、夏季休業中の貸出しを中止したため、例年よりやや減少）。



職員による読み聞かせ（月間読書）

全体としてみると読書冊数や目標冊数達成はなされているが、個人で見ると読書に消極的な児童もおり、そのような子どもたちの読書意欲を高めるために、読書指導係としての投げかけはもちろん担任の関わり方も重要であると考えます。授業における読書指導と連携を図り、子どもたちが読書の楽しさや本を読むことで自分の考えを広げたり深めたりするような活動を展開していくことが今後の課題としてあげられる。